



9月29日(金)名大・NALIC先端科学リサーチツアーについてお知らせします。
1・2年生合わせて16名が参加し、実験や講演を通じて、先端科学への理解を深めました。

◇ 名古屋大学工学部実験講座

名古屋大学工学部では、工学研究科 教授 瓜谷章先生より学部学科説明を受けたのち、関高校出身の松井良樹先輩から高校時代・大学での学びについて話をしてもらいました。その後、5つのグループ（ナノ粒子・波動と発電・X線透過装置・原子炉シミュレーター・流体の不思議な運動）に分かれ、講義を受けたのち、実験に取り組んだり、研究室を見学したりしました。



👉 キャンパス内を見学。液体窒素の充填を目撃。



👉 瓜谷章先生ご講話

👉 松井先輩のお話



👉 ナノ粒子についてのお話し



👉 音や振動で発電する仕組みに耳を傾けます。

◇ 名古屋医工連携インキュベータ (NALIC) 見学・講演

名古屋大学での学食体験を終え、市バスで移動。名古屋医工連携インキュベータを訪問しました。まず、チーフインキュベータの石黒裕康さんから、愛知の産業構造について、それを前提とした医工連携の意義などについてご説明を受けたのち、構内を見学しました。最後に、FCO Power 社長の日比野智彦さんより、高校時代の行動と現在の仕事とのつながりについてお話しいただきました。



👉 発汗反応の実験



👉 カテーテル練習モデルを見る生徒たち。



👉 美味しいトマトを見分ける機械について説明を受ける。

◇ 生徒の感想

1年7組 長谷部 壘（名古屋大学で体験した実験：原子炉シュミレーター）

一番感じたことは奥が深いということです。ウランが超臨界を起こさないために中性子とよくくっつくホウ素を制御棒として入れていることを知りました。

しかし、水があることで制御棒が全く入ってなくても原子炉が暴走しないようになっていて、すごいなと思いました。また、マニュアル操作にしないとレバーを動かしても動かないことを知りました。安全性を何重にも考えてあることに驚きました。

また、はじめに聞いた教授の話で、日本には新たなエネルギーが必要だという話に共感し、僕もそういうことに携わる仕事をしてみたいとも思いました。

NALIC ではわかりやすい実験をしました。汗腺やトマトの品質を調べました。

また、社長さんの話を聞いて、若い頃に行動量のない人は、生涯ない。楽観的に物事を考える。ぼくは、これが本当にその通りだなと思ったので、これをこれからの生活に生かして行きたいと思えます。

2年4組 武藤 龍平

今日の名古屋大学ツアーでは、普段見ることのできない装置や研究室を見て回ることができました。このツアーを通じて2つのことを感じました。1つ目は今学習していることが大学で学ぶこととリンクしていることです。それは特に講義の時に感じました。僕は『波動と発電』についての講義を受けました。その講義では、専門用語も多く出て来ましたが、今まさに物理で習っている波の分野を始め、化学の原子やイオン、電気など既習範囲をある程度理解していたのでイメージすることができました。このツアーのおかげで『大学では今は理解できないことを研究している』という先入観が消えました。

また、関高 OB で名古屋大学3年の松井先輩の話を聞いて、『全てがいつか自分の役に立つ』という言葉が印象に残りました。僕も松井先輩と同じように暗記も苦手で、かつ世界史より日本史が好きな方で現に、今回のテストでもなかなか世界史 A に手をつけられず、苦しめられました。しかし、グローバル化が進んだ日本ではどうしてもいるという現実を知ることができました。たぶん、高校生活が終わるまで世界史 A に苦しめられると思いますが、やるなら『世界史を楽しもう』という意志をもって取り組みたいです。

2つ目は、行動力が未来の自分の価値観を形成していくということです。僕はこの一年半の高校生活で、名工大の講義、名大の講義、東工大のオープンキャンパスに参加しました。どれも興味本意からでしたが、今日のツアーで行ってよかったと思えました。それは自分の進路を漠然したものから細かいものに分けて見るきっかけとなってきていると感じたからです。高校に入った当初は中学時の岐阜高専のオープンキャンパスから興味を持った工学系に進みたいという大雑把な目標でした。しかし、校外での工学系の講義を受けるにつれて、工学の多様性を知り、以前より先のことを考えることができるようになってきました。

また、講義で電子顕微鏡の説明があった時、それが高価なもので中々目にすることができないことを思い出し、それを2回も使ったことがあるのはすごいことなんだと思いました。自分の行動力に感謝したいです。また、1つ目に講義をある程度理解できたと書きましたが、この経験もあるのだと思いますし、それによって生まれた疑問が毎回自分のどこかに残っているのだと思いました。これからも『why?』『興味』を大切に、思い立ったらすぐ行動したいです。

これからの学校生活では、もちろん、行きたい大学を目指すのもそうですが、たとえば、数学の公式を鵜呑みにするのではなく、そこまでの道筋を考えるなど『点を取る』という意識を、『いつか自分の興味を支える基礎になる』という意識で授業に取り組みます。また、『進学校だから大学へ行く』ではなく、『目指す大学の工学部ではこのような研究ができるから、進学校の関校で過ごす』ことを大切にして、後悔のない進路選択、進学校のルールに従ったのではないと思われる自分でありたいです。